

楽しむための河川敷 かせんしき

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



ミツないがわ かせんしき
 札内川の河川敷へ来て、水遊びや焼き肉などピクニックを楽しむ人たち。



全国各地にさまざまな「川狩り」があり、地域でおこなう川のそうじであったり、神事であったりもします。

十勝における川狩りとは、河原でおこなう炊事遠足の一種です。かつて、子ども同士で、あるいは学校や子供会で、なべと食材を持って河原へ行き、川で水をくんで炊事し、あるいは魚を釣って焼き、一日を楽しむ行事があったのです。

今でも、夏になれば河原に出かけ、焼き肉をして水遊びなどをする人たちがたくさんいます。こうしたバーベキューピクニックも、広い意味での川狩りに入るとしよう。

十勝には、昔から河原で楽しむ文化があったのです。

だれもが川を楽しめるように

河川敷とは、堤防と堤防の間にある平地のことです。

この場所は、洪水の時には増えた水を流す場所で、ふだん水はなくても、川の一部なのです。(p211)

そのため、かつて河川敷には、できるだけ人を入れないようにしていました。

しかし、川はただ水が流れるだけではなく、近くに住む人たちにとって、いこいの場所であり、広場でもあります。そのため、「川狩り」といった文化もできてきたのです。

そこで今では、河川敷を整備し、だれもが楽しく使える場所とするようになってきました。



十勝川、すずらん大橋下流のパークゴルフ場(帯広市)。

散歩したり、水遊びしたり

公園として芝生広場がつくられ、簡単な遊具が置かれているところもあります。

また、広い河川敷があるところでは川も広く、小さな子どもたちは水遊びができません。そこで、水をくみ上げて浅くてゆるやかな流れをつくり出し、安全に水遊びを楽しめるようにした河川敷公園もあります。

親子連れの散歩や学校の遠足などで、利用されます。



(上)十勝川、十勝大橋下流の親水公園(帯広市)。小さな子どもでも遊べる水路がつくってある。

(左)同じ場所。遠足にやってきた子どもたち。

1 楽しく使える(たのしくつかえる): もちろん、川や水のおそろしさを理解して、自分の身を守ることが重要である。とくに、川の水が増えた時や洪水になった時には、絶対に河川敷へ近づいてはいけない。

イベント広場として

たくさんの人を集めておこなわれるイベントのためにも、河川敷は利用されています。

とくに、夏をいどる花火大会は、十勝川や利別川など、毎年何カ所かの河川敷でおこなわれています。

あるいは、川をきれいにしようと、ボランティアでゴミ拾いをするイベントも行われます。楽しむだけでなく、川をより良くしていこうという人たちの思いと力が、河川敷に集まります。



十勝川などでおこなわれる花火大会。



河川敷のゴミを拾って川をきれいにしようという「クリーンウォークとかち in 札内川」。



札内川札内橋上流にあるスポーツグラウンド(幕別町)。サッカー、野球、ラグビーなど、さまざまなスポーツを楽しめる。

スポーツグラウンドとしての河川敷

河川敷には、野球やサッカー、ラグビーなど、広い場所を使うスポーツのグラウンドがたくさんあります。

初夏から秋にかけて、小学生からおとなまで、さまざまな年代の大会が開かれ、熱い戦いがくり広げられます。

また、パークゴルフ場も各市町村の河川敷にあります。

あるいは、夏にはマラソンやサイクリング、冬にはクロスカントリースキーなどといった、一人でもできるスポーツをしにやって来る人たちもたくさんいます。

(お問い合わせは各市町村の教育委員会まで)

楽しく川を学ぶ、水辺の楽校

できるだけ自然を生かしながら、安全に川に近づけるように整備されたところもあります。

「水辺の楽校」では、川と親しみ、川で楽しむ中で、川のことや自然のことを学んでもらおうと、遊歩道や階段などが整備されています。

十勝では、札内川の光南と大正(帯広市)、音更川(音更町)、途別川(幕別町)など、10の川に11カ所あります。



札内川の光南地区水辺の楽校(帯広市)。



札内川の大正地区水辺の楽校(帯広市)。

2 水辺の楽校(みずべのがっこう): 十勝にある水辺の楽校は、上に書いてあるほかに、十勝川(清水町) 帯広川(帯広市) 柏林台川(帯広市) ウツベツ川(帯広市) 伏古別川(帯広市) 売貫川(帯広市) 利別川(池田町)にある。